



【概要】

妙高市は、新潟県の南西部に位置し、上越市、糸魚川市、長野県の飯山市、長野市、北安曇郡小谷村、上水内郡信濃町に接しています。

日本百名山の妙高山や火打山をはじめ、斑尾山などの裾野が広大な高原丘陵地帯を形成し、北東部の高田平野、そして日本海へと続いています。

交通基盤については、北陸新幹線上越妙高駅と連結するえちごトキめき鉄道の北新井駅、新井駅、関山駅、妙高高原駅があります。また、上信越自動車道、国道18号をはじめとする幹線道路が整備されています。

- ・面積 445.63平方キロメートル
- ・人口 34,107人（平成27年 9月30日現在）
- ・世帯数 12,374人（平成27年 9月30日現在）
- ・市の花木鳥 花：シラネアオイ 木：ブナ
鳥：オオルリ
- ・市役所 〒944-8686
新潟県妙高市栄町 5 番 1 号
- ・電話 0255-72-5111
- ・ファクス 0255-72-9841
- ・ホームページ <http://www.city.myoko.niigata.jp/>
※フェイスブックでも情報配信しています

【妙高市の魅力】

その 1 「豊かな自然を満喫できる」

全国で32番目の国立公園「妙高戸隠連山国立公園」が、平成27年 3月27日に誕生。妙高市は、雄大な自然景観、豊かな山の幸に恵まれ、季節の変化を実感することができるまちです。

市内には、笹ヶ峰高原や妙高高原などの観光名所のほか、森林セラピーロードが整備され、自然の中を歩きながら心身ともにリフレッシュすることができます。また、「温泉のシチゴサン」として、

7つの温泉に5つの泉質と3つの湯色がある湧出量豊富な温泉。そして、8つのスキー場など、四季を通して豊かな自然を満喫できる観光地を抱えています。



森林セラピーロードは、笹ヶ峰高原をはじめ、市内6ヵ所にあります

その 2 「妙高で育つ自慢の食」

妙高山麓の雪解け水で育った妙高産米は、自慢の逸品です。また、市内にある3つの酒蔵では、その雪解け水を使っておいしいお酒が作られています。

このほか、トマトやトウモロコシなどの高原野菜も豊富。市内には、道の駅や直売所があり、農家の皆さんが丹精込めて育てた野菜や、果物を出荷しています。ここでは、四季を通じて食材を購入できるほか、新鮮な食材を使った料理を楽しむこともできます。



国道18号沿い坂口新田にある妙高山麓直売センターとま



上信越自動車道からも利用可能な道の駅あらい内にある四季彩館ひだなん

その3「雪で育まれた大地と心」

四季の移ろいが明確で、変化に富んでいるのが妙高市の特徴です。夏は、比較的過ごしやすく、冬は多くの雪が降りますが、この雪が肥沃な土を作るために、土壌を冬期間にたっぷりと休養させるという重要な役割を果たしています。平均気温は、12.3度で、最高気温は、37.5度、最低気温は、-8.0度です。(平成24年の数値)

約5ヵ月間の積雪期を過ごす妙高の人たちは、お互いのことを思い合い、近所で助け合うという妙高市民の心を大切にしながら、厳しい冬の生活を送っています。



冬のいもり池

その4「四季を感じるイベント多数」

妙高市では、1年を通して行事やイベントが開催され、楽しみながら生活を送ることができます。毎年開催されているものとしては、みずばしょう

祭り(4月末)、白山神社風まつり(5月初旬)、^{そうげんさい} 艸原祭(5月初旬)、関山神社火祭り(7月中旬)、あらいまつり(8月初旬)、妙高サマージャンプ大会(8月末)、信越五岳トレイルランニングレース(9月)、コシヒカリマラソン(10月)、新井別院報恩講(11月初旬)、信越学童親善スキー大会(2月)、ジュニアオリンピック・ノルディック種目(3月)、春・夏・秋のエコ・トレッキングなど



艸原祭の花火打上と「艸」の火文字



あらいまつりの大綱担ぎ